

**【一般質問】同朋社会をめざす会 杉浦明道 議員**

**新型コロナウイルス感染症拡大と慶讃事業の総計画の見直しについて**

宗務総長は、総長演説の中で、「感染症拡大の影響の中ではありますが、内局といたしましては皆さまのお声をいただきながら、次世代に念仏の教えを相続していくための施策として慶讃事業を鋭意進めていく所存であります。現段階において、感染症終息後の社会がどのように変容しているのか、大きな危機感を抱かざるを得ません。昨今の仏事の簡素化や葬儀における僧侶不要論に拍車をかけるのではないかという不安が次第に増長しています。しかし、このような危機的状況であるからこそ、大谷派宗門は念仏の僧伽の再興を願って、慶讃事業を遂行し、来る慶讃法要の厳修につなげていかなければならないと思慮いたします」と述べられています。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大という危機により、全国の寺院・教会の諸行事、法務などが行えず、仏法の会座が奪われています。しかしながら、それ以上にご門徒の方々の経済や生活にどれだけの影響が及んだのかを、宗派としては十分に理解されておられるでしょうか。私の周りでも、解雇された人、雇い止めされた人、休業のため多額の借金を抱えてしまった人、廃業を覚悟した人などがいます。緊急事態宣言が全面解除されたとはいえ、これから先、1年後、2年後、あるいは3年後にどのような影響が及んでいるかは、おそらく誰にもわからないのではないのでしょうか。そのことを考慮すれば、慶讃法要を含めた慶讃事業の総計画を見直す必要があるように思いますが、如何でしょうか。現在、総計画に提示されている慶讃法要とは、いったいどのような視座に立っているのでしょうか。

また、今議会に提示された慶讃事業特別会計では、総予算は3,632,000,000円で、その中の教区御依頼の懇志金は、29億円となっています。このような危機的状況の中、ご門徒の方々に御依頼をお願いし続けることができると思われますか。お答えいただきたいと思います。

**海外開教区における感染症拡大の影響と三開教区への支援について**

次に、世界に目を向けますと、世界の感染者数は、5月31日現在、600万人を超え、37万人以上の方が亡くなっています。とくに、米国は感染者が世界で最も多く、5月31日現在、1,769,776人で、亡くなられた方は10万人を超えました。また、ブラジルは、4月下旬以降急増していて、4月25日には52,995人であった感染者数は、5月25日には、363,211人（死者数は、22,666人）となり、最近では1日に2万人を超える新たな感染者が増え続けています。そして、ブラジル保健省によれば、5月31日現在、感染者数は、514,849人（死者数は、29,314人）と、最も深刻な感染状況になっています。（厚生労働省の公表資料より）

ところで、北米、ハワイ、南米開教区における感染症拡大が三開教区の別院、あるいは寺院・教会にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。また、開教区の別院、あるいは寺院・教会に集まっているご門徒の生活にはどのような影響が及んでいるかを把握されているのでしょうか。まずはそのことについて、お答えいただきたいと思いま

## 宗議会 一般質問

す。

日本国内に比べても、とくに感染拡大の危機が深刻である北米と南米開教区、そしてハワイ開教区への支援が必要かと思いますが、宗派としてはどのように考えているかをお答えください。

さらには、今年4月に予定していた世界同朋大会は、世界的な感染症拡大のため中止となってしまったわけですが、このような危機的状況の中、今後の海外開教の課題について、どのように考えていますでしょうか。

以上、二点について丁寧な答弁をお願いします。

以 上

### 【答弁】 藤井宣行 参務

新型コロナウイルス感染症拡大と慶讃事業の総計画の見直しについて、開教区における感染症拡大の影響と三開教区への支援についてのご質問にお答えいたします。

まず、新型コロナウイルス感染症拡大と慶讃事業の総計画の見直しについてお答えいたします。

このたびの新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、各寺院での法務、諸行事が行うことができない状況にあること、また寺院を支えてこられたご門徒の方々の生活に様々な負担が強いられていることは、すべての議員が身をもって感じておられることでありましょう。

田澤議員のご質問でお答えしていますように、このような状況にあって、宗祖親鸞聖人が問い尋ねていかれた南無阿弥陀仏の教え、言い換えれば人と生まれたことの意味をあらゆる人びとと共にたずね、そして次の世代へ確かに伝えていく、そのことが慶讃事業の願いであります。そして、それぞれの事業は、これまで取り組んできた教化施策の中でも必要欠くべからざる施策に厚みと幅を持たせてさらに前に一歩進めていくことをもって、同朋会運動の推進に資していくものであります。しかしながら、社会状況を見定め見直すべきものは見直していく、そのような柔軟な思考で事業を展開していく必要があるでしょう。

なお、2023年にお迎えする慶讃法要についても、社会状況をふまえて、今後の団体参拝計画を組み立てていく必要があることは十分承知しております。

また、慶讃事業特別会計における教区御依頼額については、ご承知のとおり2019年度から4ヵ年度にわたる総計画のもと、総御依頼額を寺院・教会に御依頼しており、すでに5月末現在で2,346ヵ寺に総御依頼額を完納いただいております。総御依頼額の減額等の変更は考えておりません。

次に、開教区における感染症拡大の影響と三開教区への支援についてお答えいたします。

開教区における感染症の影響と、それに伴う宗派支援については、藤井学昭議員の代表質問においてご説明を申し上げたとおりであります。

外出禁止令・外出自粛令下の各開教区では、ほぼすべての寺院が閉鎖を余儀なくさ

## 宗議会 一般質問

れる中、サンデーサービスや定例法要など、仏法聴聞の場に身を運ぶことのできないご門徒の淋しさ心苦しさを思わずにおれません。各寺院ではWEBによる法要や法話のオンライン配信など、それぞれ工夫して教えをともにする場を確保しようと努めています。

海外においても「新しい生活様式」が模索されていく中で、日本国内と同様、オンラインを活用した人の養成は今後ますます重要となってまいります。既にアメリカ真宗センターでは、大谷大学のマイケル・コンウェイ専任講師による学習会が行われ、北米・ハワイの開教使が参加しております。このたびのコロナ禍を逆縁とし、宗派の海外開教への歩みを一步一步進めてまいりたいと思います。

また、「このような危機的状況における海外開教の課題は」とのご質問もいただきました。宗派の危機的な財政状況は、改めて申し上げるまでもありません。緩やかなインフレ傾向が続くアメリカにおいては、大学などの教育機関や慈善団体による基金の確保・運用が行われています。浄土真宗本願寺派では、アメリカ国内の活動を支える基盤として、基金の運用益が有効に活用されております。

したがって、内局といたしましては、海外における基金の確保・運用について調査研究を進めてまいりたいと考えております。

以上

### 【一般質問】 同朋社会をめざす会 杉浦明道 議員

答弁漏れがありますので、再質問します。

「海外開教区における感染症拡大の影響と三開教区への支援について」の私の質問通告書と質問原稿では、「北米、ハワイ、南米開教区における感染症拡大が三開教区の別院、あるいは寺院・教会にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。また、開教区の別院、あるいは寺院・教会に集まっているご門徒の生活にはどのような影響が及んでいるかを把握されているのでしょうか。まずはそのことについて、お答えいただきたいと思います」と質問しているのですが、答弁では、寺院の状況については述べられているものの、ご門徒の生活にはどのような影響が及んでいるかについてはまったく述べられていません。北米開教区、南米開教区における感染症拡大はさらに深刻な状況にあります。そのような中、もちろん開教区の寺院も大変ですが、それ以上にご門徒、あるいは市民の生活は苦境に陥っていると思います。それゆえ、その点についてどのように把握しているかを再質問します。

なぜなら、担当参務の答弁では、「開教区における感染症の影響と三開教区への支援については、藤井学昭議員の代表質問においてご説明を申しあげたとおりであります」となっていますが、私からの質問は、藤井学昭議員の「質問通告書」の内容

## 宗議会 代表・一般質問に対する再質問

を踏まえた上で、世界で最も状況が深刻なアメリカとブラジルの感染者数、及び死者数を示して北米開教区、南米開教区における感染症拡大の深刻さが別院、あるいは寺院・教会だけでなく、ご門徒や市民の生活にどのような影響が及んだのかを質問しているわけです。

また、「北米と南米開教区、そしてハワイ開教区への支援が必要かと思いますが、宗派としてはどのように考えているか」についてですが、開教使等の開教従事者への支援については答えられていますが、ご門徒への支援についてはまったく触れられていないように思います。それゆえ、その点についても再質問します。

### 【答弁】 藤井宣行 参務

答弁漏れとのご指摘がありましたので、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大が開教区のご門徒の生活にどのような影響を及ぼしているかについて、改めてお答えいたします。

「サンデーサービスや定例法要など、仏法聴聞の場に身を運ぶことのできないご門徒の寂しさ心苦しさ」については既に申し上げましたが、ご門徒の生活に及ぼす影響については様々であります。日本と同様、都市生活を営むご門徒の中には、リモートワークによってパンデミック以前と収入が変わらない方もおられます。一方で、ホテルなどの観光業や百貨店などの小売業に従事しておられる方には、多大な影響が出ている旨報告を受けております。

私の受け止めを申せば、「先を見通せないことに対する不安」、これが開教区のご門徒の方々の日常生活に大きな影を落としているのは、日本と同様であります。改めて、人と生まれた悲しみ、苦しみに国や言語の違いはないのだと痛切に感じるところです。

また、開教区のご門徒への支援についてお尋ねをいただきました。3開教区への特別支援300万円は、ご門徒への支援も含めて各開教区で有効に活用いただきたいとの願いから行ったものであり、お尋ねの支援に該当するものと考えます。

以上